

地域と協同の 113号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

なぜ 今「つながり」なのか？

小木曾 洋司（中京大学現代社会学部准教授）

今年の第10回東海交流フォーラム（2月8日、生協生活文化会館にて開催）のメインテーマは「地域で人をつなぎ未来をつくる」である。このテーマにある「つながり」や「絆（きずな）」という言葉はとくに東北大地震以後よく聞かれるようになった。なぜこの言葉がよく使われるのだろうか？

大学のゼミで「孤独死」関連の本を読んでいる。NHKスペシャル取材班&佐々木とく子『ひとり誰にも看取られず』（阪急コミュニケーションズ2007）は、孤独死の社会問題化の大きな契機になった千葉県松戸市常盤平団地の取り組みを中心に報告している。その常盤平団地自治会の中澤会長は「孤独死」は生き方の問題だと言っている。「孤独死」は結果であって、どのように生きてきたのかを問題にせざるを得ないということだ。そこを追求したのがNHK「無縁社会プロジェクト」取材班『無縁社会』（文芸春秋2010）とクローズアップ現代取材班『助けてと言えない』（文芸春秋2010）である。前者はつながりが切れていく過程を、後者は30代の若者がつながりがもてない事情を描く。つまり「つながり」という視点から見れば、現代社会は排除の構造と社会に参画できない構造、そのような二重の問題構造をもっているということである。その結果を、パリの孤独死問題を契機に「隣人祭り」という交流活動を開始した政治家ペリファンは、お年寄りの荷物を運ぼうとすれば、泥棒と警戒され、かわいい子供へ声をかければ「セクハラ」と言われてしまうために「対人恐怖症」が蔓延していると述べる（『隣人祭り』ソトコト新書2008）。

このような「つながり」の問題は生活と社会を変える根本的な基盤である。「閉じこもり」とは個人の問題でなく、社会のそれであり、その扉を開ける方法を模索することこそ協同組合の直面する困難な課題である。それゆえ、ペリファンは言う、「繋がることは闘いなんだ！」と。

CONTENTS

巻頭エッセイ	なぜ 今「つながり」なのか？	1
会員活動	・「社会文化学会」第16回大会全体シンポジウムから産消提携商品「米たまご」を広めたい！	2
2013地域福祉を支える市民協同パネルは	・協同の実践や研究のまなざしで、学び合い話し合い	3
岐阜地域懇談会	第5回 岐阜のつどい 地域を元気にしようとがんばっている	4
「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流しました		4
情報クリップ		5 - 7
企画案内・書籍案内		8

研究センター	1月の活動
8日(水)	三河地域懇談会 実行委員会
11日(土)	マイスター実践交流会 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
14日(火)	常任理事会
15日(水)	岐阜地域懇談会世話人会
16日(木)	組合員理事ゼミナール・世話人会
18日(土)	共同購入事業マイスターコース第6回
20日(月)	協同の未来塾企画委員会
21日(火)	くらしを語りあう会
22日(水)	F職員の仕事を考える
25日(土)	東海交流フォーラム実行委員会/理事会
29日(水)	NEWS編集委員会
30日(木)	環境パネル世話人会
31日(金)	常任理事会

会員活動 - 12月7日 社会文化学会第16回全国大会 全体シンポジウム から

産消提携商品「米たまご」を広めていきたい！

社会文化学会第16回全国大会が、生協生活文化会館(本山)を会場に、研究センター会員の小木曾洋司先生が大会実行委員長として開催された。大会テーマは「協同の社会システム形成の方法と課題」で、全体シンポジウムでは、研究センター会員3名の方(研究センター理事の兼子厚之さん、コープあいち常務理事の磯村隆樹さん、デイリーファーム社長の市田真新さん)より、現状の生協運動の課題や産消提携、「米たまご」の取り組みが報告された。その報告の概要を、紹介する。シンポジウムは、「米たまご」の取り組みを素材に、生産と消費の協同システムについてどう明らかにするか考えようというものだった。(文責:事務局)

ご挨拶 実行委員長 小木曾洋司

会場の会館は、1階が店舗で、2階には「まちの縁側」のような空間のフリースペースがあり、3階には会議室等があるが、店舗と分離して考えられているわけではない。多大な組合員エネルギーによる会館建設の経過があり、生協の活動、組合員の活動の拠点の建物となっている。会館があることで、この地域の人の豊かさが保証されている。この雰囲気を感じながら、活発な論議を期待したい。

報告1 生協運動の新たな段階への胎動

兼子厚之

コミュニティの軸は3つある。1つは地縁軸、町内会や自治会、隣近所で、2つめはイシューや目的でつながる軸、3つめに、ふたつの軸をさらに多元的につなげる三次元軸の存在である。

コミュニティづくりへ課題として、マルチな連帯と協働をどう育むかということがあり、市民協同を起点に協同の社会システムを考えることが必要。国際的な新しい協同組合などの広がりや非営利・協同セクター(サードセクター)の関心が広がっている。

消費と生産の協同システム作りが期待されている。市民のくらし発で、消費者の参加型、生産提供者のインターラクト型が望ましい。

報告2 「コープあいち」の産消提携政策と

「米たまご」への取り組み 磯村隆樹

コープあいちでは「あいちを食べよう日本の食を大切に！」運動に取り組んでいる。産地との交流を重視し、生産者の思いをしっかりと聞く収穫体験交流を通して親子で学ぶことを大切にしている。

「米たまご」は、飼料に米を10%混ぜている。生産者が再生産できるように、他と比べても1.5倍くらい高価だが、価値をしっかり語り利用を広げる活動をしている。産消提携の3原則は、産地と生産者がわかる、産物の基準がわかる、生産者と組合員が交流して、利用につながることであり、「米たまご」のような社会的価値ある商品の理解を広げていくことが大事である。

報告3 「米たまご」生産を支えるもの

市田真新

養鶏農家は祖父や父から引き継いだ。鶏は平飼いで、病気で死ぬことも多かった。「うちの鶏の健康は私が守るんだ」と決め、獣医学校に入り、鶏屋になり、後年地元で獣医も開業致した。日本は生でたまごを食べる文化があり、安全でないといけない。鶏の健康管理とたまごの衛生管理は、獣医としてやっている。鶏糞の処理は本当に苦労した。工夫して醗酵鶏糞として有機肥料に改善した。

現在、遺伝子組み換えしていない(ノンGMO)原料にこだわった飼料で鶏を育てている。たまごは100%日本で作っているが、餌代は卵価格の60%の割合で全部海外に依存している。それではいけない、遺伝子組み換えしていない飼料で育てたいという思いで、コープあいちの組合員さんたちと、地元の米農家と提携して15年になった。米一俵つくるのに、後継者を育てようと思うと1万5千円くらい収入がいる。米1キロは250円くらいになる。海外のとうもろこしは1キロ25円くらいで、たまごの価格は98円。飼料米だと200円くらいなので、たまごは1200円になるが、その価格で売るのははいかない。全然飼料の穀物を使えなかったのが日本の現状だ。

米づくりは、減反政策や補助金制度によっていろいろ状況が変わる。しかし、どんな状況になってもつきあっていくことを米農家の方に約束して、「米たまご」の生産を始めた。「私は我が家族にはちゃんとしたものを食べさせたい」と言う生協組合員に応えたいと思っている。1年間「米たまご」を利用すると、4坪の田んぼで米を再生産できるという「4坪運動」を皆さんに訴えている。

私たちは、食べ物を作っているが、命をいただき、命をはぐくむ特別な商品だと思っている。ぜひ、米たまごを広めていきたい。安いもの、売れるものではなく、必要なものをつくりたいと思う。





2013 地域福祉を支える市民協同パネルは・・・

協同の実践や研究のまなざしで、学び合い話し合い

昨年(2012年)度は、「地域福祉を支える市民協同」ってなんだろう?、あらためてどういうことなのかという問い直す中で座談会など行い、地縁組織や志縁組織(NPOなど)の視点、そして生協や生協とつながりながら活動する組織という見方で地域を考えてきました。世話人たち自身が座談を展開しながら、個々の地域での実践活動を手掛かりにして、それらを俯瞰的にとらえながらつながりを見つけだしました。今年(2013年)度は、地域社会の有り様について学問的な学びも取り入れながら話が進んでいます。また、市民が協同する具体的な活動に焦点を絞り、地域の多様性にも見張りながら、活動の担い手の思いにも共感を忘れていません。今年(2013年)度の活動を簡単に報告します。

(文責 パネル事務局)



● 座談会を通して見えてきたことは

地域では地縁組織がベースにあって、NPOなどの課題を持った組織(志縁組織)が、補完する役割を担いながら重なり合って存在しているというのが現実のようだ。地域福祉課題への生協の接近の仕方や、生協の取り組みの可能性が見えてきた。

● 愛知の高齢者生協に注目

なごや平和福祉会の岡田さんから、「加齢を華麗に あなたの出番が地域にある」というタイトルで高齢者生協の全国フォーラムを準備しているという情報が寄せられた。生きがい、福祉、仕事おこしを活動の柱にしている高齢者生協であるが、今の社会状況にどのように向き合っているか、愛知高齢者生協の事業活動について長谷川理事長から話を伺った。(5月23日、愛知労働者会館にて。話の詳細はミニ冊子があります。事務局へお問い合わせを。)

● 現代の地域社会について学問の領域で学ぶ

パネルでは活動の実践家に交じって研究者もやってきます。地域社会学の小木曾洋司先生のゼミナールを開催し、格差社会の出現、福祉の意味、格差社会の貧困や信頼との関係について講義を受け、その中で「社会的包摂」についても言葉が及んだ。(7月9日)

● 高齢者への配食ボランティア活動と相互自助＝協助

団塊の世代の定年退職者が大量出現で、彼らの生きがいや社会貢献への関心と、具体的な活動へ

の注目が集まっている。友愛・協同研究会年報第1号(2013.9.3)掲載-「高齢者配食ボランティアと友愛」橋本吉広-に着目した。橋本さんには相互自助＝「協助」について講義を、合わせて、国の施策動向や見方も披露された。(9月6日、詳細はミニ冊子に)

そして語られた事例からボランティア活動の継続性や有償性についての問題が生まれたので、配食ボランティアグループ「月木会」の担い手から直接話を聴く場を持った。同時に、コープあいちの生活サポートの河田さんから「ユニバーサル就労」への関心について話をしていただき、交流の中で就労支援のNPOからは「中間就労」の話もあった。(11月2日)

● 地域福祉を支える「市民協同」

パネルでは東北の被災者支援の愛知の活動状況も話題にしている。支援活動も含め担い手がアクティビストになるときを意識しながら、市民協同に興味付けできる自分たちの言葉を探している。



「岐阜地域懇談会 第5回 岐阜のつどい」

地域を元気にしようがんばっている

「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流しました

1月5日（火）に第5回岐阜のつどい「地域を元気にしようがんばっている「やまがた」の若者と元気なお母さんたちと交流しよう」を開催しました。「やまがた」といっても東北ではありません。関市と本巣市の山間の町、神崎集落を中心とした山県北部です。神崎川は今まで見たこともないほどきれいな川でした。神崎川をさかのぼっていくと、あらわれたのがつどいの目的地、旧北山小学校、その校内にあるのが、北山農家レストラン「舟伏の里へおんせえよお〜」です。自分の住んでいる地域を大切に、これからもこの地域での暮らしを残していきたいと考える地元出身の集落支援員横山さん（伊自良）、山口さん（北山）、都会からやってこられた地域おこし協力隊の中村さん 若者3人の、熱い思いをお聞きし、農家レストランの運営に携わっておられる元気な北山のお母さんたちと楽しく交流ができました。 文責：事務局



集落支援員の3人からお話を聞く



農家レストランの「花かご」



元気なお母さんと、和やかに交流

横山さん、山口さん二人とも一度はこの地域から離れたのですが、さまざまな経験の中で、自分の生まれた地域のくらしの素晴らしさに気づき（自然、人 伝承文化 農業の大切さ...）ユーターン。その良さを広く皆さんに知っていただくためにさまざまな活動をはじめられました。その一つとして生まれたのが農家レストランです。中村さんは、料理の専門家としてレストランの運営の指導にあたっておられます。

その活動のようすから参加されたみなさんの楽しさ・余裕が伝わってきます。無農薬稲作にチャレンジ、いろいろの事情がかさなって半分はシカのエサになってしまった、このシカを食べないといけないのではないかと、婚活イベントを企画、伴侶は見つけれなかったけれど、そのイベントに参加された男性がいろいろな地域おこしのイベントにも参加されるようになり、地元の良さに気付かれたとか、どのエピソードも豊かな暮らしとはいったい何だろうと私たちに考えさせられる示唆に富んだものでした。

昼食後、レストランスタッフのお母さんたちからうかがったお話は、聞いているだけで元気が出てきます。「昔のことと思ったら今は幸せ、楽しい」くらし、新聞配達の人がある前に雪をかいておいてあげるのは常識。裏に行けば野菜あるから何にも困らない。雨降ったら留守の隣の家の洗濯物入れてあげるのが当たり前、時には、うっとうしいぐらいの絆、（孤独死なんてありえない）ちょっと前まで結婚式は3日3晩続いて酒の席でのもめごとは当たり前、最近みんなおとなしくなった・・・この3人の若者よく頑張っていて可愛い、中村さんから料理の盛り付けの指導を受けたが、量が少ない、イモとか私はもっと盛ってあげたい。やまがたのお母さんたちどの方も魅力的でした。

若者たちの仕事は期限付きです。行政からの補助がなくなったあと、どのように生業としての仕事をこの地におこせるか。難問は控えています、彼らなら、何とかしていける・・・また、私たちは何か応援したいと強く思いました。

情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(領面)
<p>生協のよさを広め 組合員のくらしに 貢献しよう</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2014.1 742</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>新春特別鼎談 やっぱ生協っていいよね！ 組合員理事と生協の今と未来を語る</p> <p>特集 コープ商品のよさをもっと広め、組合員のくらしに貢献しよう</p> <p><仲間たちはいま> みやぎ生協 生活文化部 天野美咲さん <防災365日> PART10 地域と防災 マップ作りで防災シミュレーション <宅配・現場レポート> 仲間づくり施策・ツール検討会 <生協の店づくり最前線> 大阪いづみ市民生協 コープ和泉中央 <ボクらは商品探偵団> 歯ごたえプリプリ 小田原御蒲銚上板 <つながろうCO・OPアクション情報> いわて生協 ほか <食品のはてな?BOX今月のテーマ> 「冷凍食品」 <明日のくらしささえあう COOP共済> コープみらい <林家たい平 笑顔が見たくてこの仕事> 其の十 <CO・OPニュースフラッシュ> コープ共済連 ならコープ <思わず話したくなる!生協の基礎知識> 第10回 [生協の大運動編] <この人に聞きたい> 民謡歌手 小田代直子さん <もっと知りたい! CO・OP商品> しめさば しめさば昆布じめ</p>	<p>2014年 1月 A4版 39頁 定価 350~円</p>
<p>われらCO族 ~集うっていいね~</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2014.1 557</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>特集 われらCO族 ~集うっていいね~</p> <p>[バンビのつばやき] 交換人生 謳歌中 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子 [住まう] 入院患者から生活者へ サービス付き高齢者向け住宅さくら (青森保健生協)</p> <p>[介護十人十色] 介護を理由に命の灯が消される世の中であってはならない 特別養護老人ホーム入居待機者家族会</p> <p>[TOMOそだち] 誰もが人とのつながりを求めている一人じゃないことを伝えたい NPO法人 仕事工房ポポロ 代表 中川健史(たけし) 理事 南出吉祥</p> <p>[協同のある風景] 212 医療生協が見える・使える事業を生活圏域に 医療生協さいたま「支部活動拠点モデル事業」</p>	<p>2014年 1月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>ついに見つけた わたしのキラリ プチ起業がひらく 地域の未来</p> <hr/> <p>はじめる!人がつながる 社会が変える のんびる</p> <p>2014.1 No.87 パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>【特集】 ついに見つけたわたしのキラリ プチ起業がひらく地域の未来</p> <ul style="list-style-type: none"> * ふるりの銘茶「狭山茶」のおいしい伝統つなぎます 茶柱くらぶ(埼玉県さいたま市) * 地域の国際力アップを英会話力でサポートします アーニーズ スクール ハウス (千葉県柏市) * つくって、とどけて、よんでもらう。オモシロ"本人間"をつなげたい! トマソン社代表 松田友泉 (東京都練馬区) * ネットワークならある!商店街で居場所作りをはじめました すずカフェ準備委員会 代表 阿久津佳子さん (神奈川県横浜市) ・はじめの一步通信登場者の その後の一步 丘の上の古民家で、地域を元気にする「コミュニティカフェ」の 開店準備を始めた 大橋 文さん ・内山節 里山から考える 第49回 高齢者を追い詰める今の都市社会 老いについて(3) ・色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」 第22回 医療の民営化で医療費は増大 ・地域のお茶の間に行こう 特別編 群馬県上野村ではじめました 里山に生まれたカフェが地域を盛りあげる 	<p>2014年 1月 B5版 51頁 定価 315円</p>

<p>現代大学事情 - いまどきの 大学と学生</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2014.1 456</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>巻頭言 生協総研ビジョン・中期計画づくりについて 特集 現代大学事情 - いまどきの大学と学生 現代学生の意識と価値観 - 25年間の調査から - 中教審答申が求める大学の将来 危機に立つ大学教育の質保証 日本の高等教育の課題と「ハイ・インパクト・プラクティス」の可能性</p> <p>芳賀唯史 片桐新自 本木章喜</p> <p>濱名篤 小林雅之 (聞き手:松本進)</p> <p>編集部 白水忠隆</p> <p>編集部 編集部</p> <p>講演録 第2回憲法改正学習会 今憲法の何が、どう変えられようとしているのか? 藤原真由美 被災地からの報告 被災地支援 - 子ども達の心をサポートする - 永田陽子 海外情報 第8回国際サードセクター学会アジア太平洋大会に参加して 山崎由希子 モンドラゴン、ファゴール家電グループの倒産と当面の教訓 石塚秀雄</p>	<p>2014年 1月 88頁 B5版</p>
<p>よりよい未来の ための挑戦</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2014.1 707</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 よりよい未来のための挑戦 - 農業と地域を豊かにするJAへ - JAの役割とその未来に期待したい事 神野直彦 提言(1)協同組合のアイデンティティをあらためて考える - ICA「ブループリント」を素材に 増田佳昭 提言(2)食糧安保とグローバルビジネス 内田樹 提言(3)JAが持続可能な地域社会を支える 池上甲一 活力ある農業・地域づくりに向けて - 農林水産業・地域の活力創造プランとりまとめをふまえて JA全中 ・きずな春秋 - 協同のこころ 童門冬二 ・新春対談 安全・安心な日本の農畜産物が人をつなぎ命をつなく 菊川怜 萬歳章 ・ミノーレからこんにちは / JAグループの共通コンテンツ ・協同の実践に学ぶ 先人の言葉・佐藤秀一 白石正彦 ・協同組合の広場 日本生協連、JF全漁連、全森連、全国信用金庫協会 ・次代へつなく地域社会のために 中山間地域の暮らしを支える支店 ~ JA広島北部の取り組み 西井賢悟 ・地方紙ニュース 第34回 地方で奮闘する若手記者たち 谷口学 (共同通信社) ・海外だより [DC通信] 32 アメリカ議会とTPA 古林秀峰 ・協同の力で農業と地域を豊かに 住民と病院が手を携えて地域を守る 後編 ~ JA愛知厚生連足助病院 (愛知県豊田市) 青山浩子 次代へつなく協同実践塾 ・持続可能な農業の実現 JAグループにおける6次産業化の取り組み JA全中営農・JA農地総合対策部 ・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 次期介護保険制度の改定のおもな内容および JA 高齢者生活支援活動の取り組みについて JA全中くらしの活動推進部 ・10年後JAが存続するために 経営基盤強化に向けた戦略的計画の策定 JA全中経営対策本部</p>	<p>2014年 1月 A4版 66頁 年間購読 料 4,800 円(送料込)</p>

<p>エネルギーを 取り戻す</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2014.1 406</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>年頭にあたって 澤口隆志(市民セクター政策機構)</p> <p>特集 エネルギーを地域に取り戻す</p> <p>動き出す市民・地域協同発電所 山崎求博(足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ)</p> <p>市民エネルギー事業の意義と課題 丸山康司(名古屋大学)</p> <p>電力システム改革と電力行政の現状の課題 竹村英明(エナジーグリーン(株))</p> <p>自分たちが関わってパラダイムを変える 清水泉(生活クラブ生協埼玉)</p> <p>にかほ市と生活クラブとの連携推進フォーラム</p> <p>「原発ゼロ政策」から「原発回帰」へ 市民のお金の流れを創る 牧野昌子(ちばのWA地域づくり基金) 岸田仁(かながわ生き生き市民基金)</p> <p>連載 市民金融の現状と課題 - 「生協金融から生協信用へ」を模索して 第2回(最終回) 松崎良(行政書士)</p> <p>TPPが破壊する日本の食 第4回(最終回) 遺伝子組み換え作物をめぐる企業と市民の戦い 白井和宏(生活クラブ・スピリッツ)</p> <p>『艦砲』は歌い継がれる 第5回 従軍看護師の見た地獄(中) 葉上太郎(地方自治ジャーナリスト)</p> <p>書評 辻村英之著『農業を買い支える仕組み』 後藤光蔵(武蔵大学) 武本俊彦(食と農政策アナリスト)</p> <p>松岡公明・小林元・西井賢悟著『支店協同活動で元気なJAづくり』 今野聰</p> <p>雑記帖 道場親信</p>	<p>2014年 1月 B5版 60頁 頒価500円</p>
<p>生協の障がい者雇用の 現状と課題</p> <hr/> <p>生協運営資料</p> <p>2014.1 275</p> <p>日本生活協同組合連合</p>	<p>巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 組織にとって最も大切なのは人。 人の成長を組織の強みにしていく必要があると思います とくしま生協 理事長 梶原 樹氏</p> <p>特集 生協の障がい者雇用の現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 事業所と能力開発センターの併設で、障がい者の雇用の就労支援に お役立ちする 阪神友愛株式会社 代表取締役社長 宮永誠文氏 作業環境の整備と資源リサイクル業者との連携によりエコセンターを運営 コープCSネット 総合企画室 宅配事業支援課 担当課長 倉田慶太氏 株式会社ハートコープおのみち・エコセンター 事業所長 深井大氏 障がい者が働き続けられる環境整備と障がい者雇用の一層の理解を促進していく みやぎ生協 総務部 人事教育課 笹由紀子氏 " " 伊藤ふみ子氏 障がい者雇用は人権に関わる問題。障がい者を雇用するからには 経営に貢献する働き方をしてもらうことが必要です 株式会社ダックス四国 代表取締役社長 且田久雄氏 <p>シリーズ 店長養成講座 ~コープ「店長ワークショップ」講演~ 第5回実践！「コンプライアンス」 コープさっぽろ 人事本部 店長トレーナー 阿部整治氏 実践！宅配センター運営 第5回 組合員とのコミュニケーションを蜜にした「なかまづくり」の実践 コープこうべ 宅配事業部 拡大推進統括 新島進氏</p> <p>オゾン層破壊係数「0」の新冷媒への切替とフロン法改正への対応 日本生協連 事業支援本部 店舗事業支援部 山下直 ならコープ 開発・管財部 マネジャー 上床正行氏 みやぎ生協 施設部 部長 大場裕利氏</p> <p>生協の産直事業の現状と課題 日本生協連 商品政策室 産直グループマネジャー 内山和夫</p>	<p>2014年 1月 B5版 107頁 定価850円</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内



● 原子力市民委員会 第2回 意見交換会名古屋

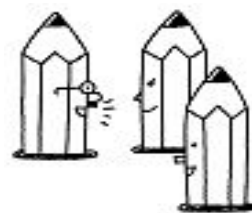
テーマ: (1)放射性廃棄物の処理・処分(「中間報告」第2章)
(2)原発ゼロ社会を実現する行程(「中間報告」第3章)

2014年2月8日(土)13:30~16:30

会場:東別院会館「蓮」の間(地下鉄「東別院」4番出口西へ5分)

参加費500円(*中間報告書は別途500円)

【主催】未来につなげる・東海ネット、原子力市民委員会 詳しくは <http://tokainet.wordpress.com/>



● 生協総研賞・第10回助成事業論文報告会

2014年2月8日(土)12:20開場 千代田区立日比谷図書文化館 B1階大ホール

報告会12:55~17:25 懇親会17:35~18:40 **参加費無料**

【主催】公益財団法人 生協総合研究所 詳しくは http://www.ccij.jp/jyosei/ken140110_01.html

【問合せ・申込先】公益財団法人 生協総合研究所 担当:中村

〒102-0085 東京都千代田区六番町15 プラザエフ6F

Tel.03-5216-6025 Fax.03-5216-6030 E-mail:ccij@jccu.coop

書籍案内



里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く

著者:藻谷浩介 NHK広島取材班

発売日:2013年7月9日 定価(税込):820円

判型:新書判 出版社:角川書店

内容:「社会が高齢化するから日本は衰える」は誤っている!原価0円からの経済再生、コミュニティ復活を果たし、安全保障と地域経済の自立をもたらす究極のバックアップシステムを、日本経済の新しい原理として示す!!

目次:はじめに「里山資本主義」のススメ

第1章 世界経済の最先端、中国山地—原価ゼロ円からの経済再生、地域復活

第2章 二世紀先進国はオーストリア—ユーロ危機と無縁だった国の秘密

第3章 グローバル経済からの奴隷解放—費用と人手をかけた田舎の商売の成功

第4章 “無縁社会”の克服—福祉先進国も学ぶ“過疎の町”の知恵 全体総括 「里山資本主義」で不安・不満・不信に訣別—1日本の本当の危機・少子化への解決策

おわりに 里山資本主義の爽やかな風が吹き抜ける、二〇六〇年の日本 角川書店ホームページより

2014年1月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 2月の活動予定

6日(木) 事務局会議 8日(土) 第10回東海交流フォーラム

10日(月) F職員の仕事を考える世話人会

11日(火) 生協の未来のあり方研究会

16日(日) 共同購入事業マイスターコース第7回

19日(水) 食育講演会コープあいち

20日(木) 食と農パネル世話人会

24日(月) 協同の未来塾企画委員会

25日(火) NEWS114号発送

26日(水) 三河地域懇談会実行委員会

27日(木) 常任理事会

28日(金) とうかい食農健SC学習交流会「学生の食の今」